

(3)協議会・幹事会並びに各部会の平成28年度活動報告
及び平成29年度活動計画について

兵庫県がん診療連携協議会・幹事会関連

項目	内容
平成28年度の活動報告	平成28年4月21日(木) 兵庫県がん診療連携協議会(第11回) 開催 平成28年6月9日(木) 第1回幹事会 開催 平成29年2月23日(木) 第2回幹事会開催 平成28年11月19日(土) 兵庫県がん診療連携協議会主催 第6回「ひょうご県民がんフォーラム」開催 168名参加 場所:兵庫県民会館9階「けんみんホール」 テーマ:「がんと免疫」 担 当 : 兵庫医科大学病院(代表)、関西労災病院、近畿中央病院、県立柏原病院
平成29年度の活動計画 及び今後の検討課題等	平成29年4月20日(木) 兵庫県がん診療連携協議会(第12回) 開催予定 平成29年6月15日(木) 第1回幹事会 開催予定 平成30年2月22日(木) 第2回幹事会開催予定 平成29年11月18日(土) 兵庫県がん診療連携協議会主催 第7回「ひょうご県民がんフォーラム」開催予定 場所:兵庫県民会館9階「けんみんホール」 テーマ:「未定」 担 当 : 神戸大学医学部附属病院、中央市民病院、西神戸医療センター、こども病院

兵庫県がん診療連携協議会「研修・教育」部会関連

項目	内容
平成28年度の活動報告	<p>県立がんセンターにおけるがん看護実務研修の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成28年 5月30日～ 9月9日のうち34日間 <p>がん診療連携拠点病院を対象とする</p> <p>「第2回 兵庫県がん化学療法チーム医療研修会」の開催</p> <p>平成28年9月10日(土) 兵庫県立がんセンター 2F 大会議室</p> <p style="padding-left: 20px;">テーマ「免疫チェックポイント阻害薬の適正使用～多職種アプローチ～」20名参加</p> <p>セミナーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 肝がんセミナー 平成28年10月15日(土) 県民会館「けんみんホール」 <li style="padding-left: 40px;">テーマ「肝がん撲滅を目指した治療戦略」 74名参加 ・ 放射線セミナー 平成28年10月29日(土) 神戸市教育会館 大ホール <li style="padding-left: 40px;">テーマ「乳がんの早期診断と最新治療」 219名参加 ・ 検査セミナー 平成28年12月17日(土) 兵庫県学校厚生会館 <li style="padding-left: 40px;">テーマ:「悪性リンパ腫」検査と治療 up to date ・ 薬剤師セミナー 平成29年1月21日(土) 兵庫県私学会館 201名参加 <li style="padding-left: 40px;">テーマ:「免疫チェックポイント阻害剤の有害事象管理を学ぶ」 <li style="padding-left: 80px;">及び「がん指導・専門薬剤師の役割を学ぶ」 <p>共催研究会・県民フォーラムなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第6回ひょうご県民がんフォーラム 平成28年11月19日(土) 県民会館 <li style="padding-left: 40px;">テーマ:「がんと免疫」 168名参加 <p>担当施設: 兵庫医科大学大学病院(地域別で持ち回りにて開催する)(再掲)</p>
平成29年度の活動計画及び今後の検討課題等	<p>県立がんセンターにおけるがん看護実務研修の開催</p> <p>セミナーの開催</p> <p>共催研究会・市民フォーラムなど(予定)</p>

(平成28年度 P D C A サイクル実施計画・管理表)

平成 28年 12月 31日 現在

病院名	実施予定				実施管理					
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	P 計画	D 実行	C 評価		A 改善	
							区分	内容	区分	内容
研修 教育 部 会	がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成	兵庫県では、平成19年からがん診療連携協議会を組織し、幹事会の中の研修教育部会において、放射線療法、化学療法、手術療法に携わる医療関係者の育成と、チーム医療の推進を図ってきており、さらに進める方針。	県立がんセンターにおけるがん看護実務研修の開催 平成28年 5月30日～ 9月9日のうち34日間	H28年9月			概ね達成	がん実務参加者 10名 全期間を通じた聴講者を含む延べ参加者数906名 院内他職種71名、他病院看護師116名、訪問看護 126名、在宅介護30名 参加者の増加が図れた。 がんセンターの参加者だけでなく、訪問看護ステーションの参加者、看護以外の介護職や薬剤師等の参加もあり、概ね達成できた。	継続	各種会議や研修会等において、地域包括ケアを見据えて、訪問看護ステーション、地域包括ケアセンター等に案内用紙を配布して参加者の増加を図る。 研修内容は、せん妄を追加する。院内研修とコラボできる研修は整理する。
		研修教育部会で8年間にわたってセミナーやフォーラムを開催し、一定の成果が得られたが、拠点病院間、各圏域での周知不足や意識の差が大きい。	セミナーの開催 1) 肝がんセミナー 平成28年10月15日(土) 県民会館「けんみんホール」 テーマ「肝がんの診断と治療 -update-」(仮題) 2) 放射線セミナー 平成28年10月29日(土) 神戸市教育会館 大ホール テーマ「乳がんの早期診断と最新治療」 3) 検査セミナー 平成28年12月17日(土) 兵庫県学校厚生会館 テーマ「悪性リンパ腫」検査と治療 up to date 4) 薬剤師セミナー 平成29年1月21日(土) 兵庫県私学会館 テーマ「免疫チェックポイント阻害剤の有無事象管理」 「がん指導・専門薬剤師の役割」	H29年3月			概ね達成	医師、薬剤師、看護師、放射線技師など、チーム医療に関わる医療従事者を対象に、それぞれの観点からセミナーを行い、医療レベルの向上を図っている。 1) 肝がんセミナー 参加 74名 平成28年10月15日(土) 県民会館「けんみんホール」 2) 放射線セミナー 参加 219名 平成28年10月29日(土) 神戸市教育会館 大ホール 3) 検査セミナー 参加 196名 平成28年12月17日(土) 兵庫県学校厚生会館 4) 薬剤師セミナー 参加 201名 平成29年1月21日(土) 兵庫県私学会館 大ホール	継続	今年度に予定していたセミナーは、薬剤師セミナーを残すだけとなったが、国指定・県指定及び準じる病院の拠点病院に対し、積極的な参加を呼びかける。
		セミナーやフォーラムへの参加者の増加には繋がっていない。今後は、セミナーへの参加者増に向けた企画立案など、工夫や改善が必要である	県民フォーラムなど(予定) 第6回ひょうご県民がんフォーラム 平成28年11月19日(土)県民会館 テーマ「がんと免疫」 担当施設：兵庫医科大学大学病院(地域別で持ち回りにて開催する)(再掲) 協議会との共催に同意が得られた研究会・懇話会の順次開催(http://www.hyogo-ganshinryo.jp/index.html に掲載)	H29年3月			達成	県民へのがんに対する知識の啓蒙活動として、今回は「がんと免疫」を取上げ、その最先端の情報を発信できた。 第6回ひょうご県民がんフォーラム 参加人数 161名 地域ごとに行われている研究会などの後援を行っている。	継続	来年度も引き続き、第7回ひょうご県民がんフォーラムを開催し、県民へのがんに対する知識の啓蒙を目的とした啓蒙活動を続けていく。 各種研究会との連携を考慮し、引き続き研究会などの後援を行う。

(注)実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。



TOPICS

医療関係者の方へ

07/20 「5大がんの地域連携パス」兵庫県統一版に改訂版を追加しました。

一般の方へ 医療関係者の方へ

02/25 第16回がんフォーラム「知ってもらいたい『薬が効くがんの最新情報』」を開催します。

医療関係者の方へ

02/09 「第5回県立尼崎総合医療センターがん診療拠点病院医療者研修会」を開催します。

医療関係者の方へ

01/28 「第22回真播慶緩和ケア研究会」を開催します。

医療関係者の方へ

01/21 「第9回薬剤師セミナー」を開催します。

医療関係者の方へ

01/19 「第73回兵庫緩和ケア研究会」を開催します。

一般の方へ 医療関係者の方へ

01/13 平成28年度 第2回兵庫県院内がん登録実務者ミーティング(平成28年11月15日)の議事録を掲載します。

- がん診療連携拠点病院
- 兵庫県がん地域連携パス
- 兵庫県緩和ケア研究会
- 兵庫県がん対策推進計画
- がん相談支援センター
- 関連情報リンク
- がん情報サービス ganjoho.jp
- 都道府県がん診療連携拠点病院 兵庫県立がんセンター

兵庫県がん診療連携協議会「情報・連携」部会関連

項目	内容
<p>平成28年度 の活動報告</p>	<p>1 活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん相談実務者ミーティングの開催;4回/年を予定 第29回会議 2016年6月4日(土) 13:30～15:30 場所:神戸大学医学部付属病院 外来診療棟4F第二会議室 【内容】PDCA実施状況チェックリストを用いた課題の共有、その他 第30回会議 2016年10月1日(土) 13:00～16:00 場所:県立がんセンター大会議室 【内容】「兵庫県がん相談員研修」として別紙研修企画に基づいて開催 国立がん研究センター認定がん専門相談員の単位研修 第31回会議 2016年12月10日(土) 14:00～16:00 場所:県立がんセンター大会議室 【内容】ピアサポーター活用事業に関するキックオフミーティング 第32回会議 2017年2月25日(土)(予定) 13:30～15:30 場所:県立がんセンター大会議室 【内容】PDCA実施状況チェックリストを用いた課題への取り組み状況評価の共有、産保センターの事業紹介 ・がん相談実務者ミーティング事務局会議の開催 第14回会議 2016年4月25日(月) 15:00～17:00 場所:神戸大学医学部 新緑会館 研修室2 【内容】兵庫県実務者ミーティングの今年度の計画検討 ・ピアサポーター事業開始に向けての準備を進める。 ・神戸大学と共催で、ピアサポーター養成研修会を開催する 第15回会議 2016年6月4日(土) 15:30～17:00 場所:神戸大学医学部付属病院 外来診療棟4F 会議室2 【内容】 <ul style="list-style-type: none"> 1.ピアサポーター事業概要について 2.今年度の実務者ミーティングの研修内容について 3.事務局運営について 4.がん相談の質向上への取り組みについて 5.就労支援について 6.その他 第16回会議 2017年2月6日(月) 15:00～17:00 場所:神戸大学医学部付属病院 外来診療棟4F 第2会議室 【内容】 <ul style="list-style-type: none"> 1.今年度の活動評価と次年度の目標・計画立案 2.ピアサポート事業研修内容 3.H29年度 がん相談実務者ミーティング開催日の検討 <p>2 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> 第7回部会 2016年5月19日(木) 13:00～16:30 場所:国立がん研究センター国際交流会館3階 【内容】がん相談支援センターのPDCAサイクルの確保・活動の可視化について、その他 第8回部会 2016年12月8日(木) 13:00～16:30 場所:国立がん研究センター国際交流会館 国際会議場 【内容】がん相談支援センターをめぐる課題とその対応について その他
<p>平成29年度 の活動計画 及び今後の 検討課題等</p>	<p>1 活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん相談実務者ミーティングを年4回開催する:日程は調整中 【内容】事例検討、認定がん専門相談員単位認定研修の実施、患者会との交流会、各施設の活動評価の共有 ・がん患者の就労支援を行う体制づくりをする。 ・がん患者のピアサポートの体制づくり・継続を支援する。 ・情報・連携部会のとがん相談実務者ミーティングを合併する ・県内のがん相談支援の質向上を推進する人材を育成する。

《平成28年度PDCAサイクル実施計画・管理表》

平成28年12月31日 現在

部 会 名	P 実 施 計 画				D 実行	C 評価		A 改善		
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)		区分	実 施 内 容		区分	改善内容(計画)
部 会	がん相談支援の質の向上、活用の促進に努める	がん相談支援の質がどうなっているかが把握されていない。 各病院の相談支援部門がどのような課題を持っており、どのように質の改善に努めているのかわからない。	1) 各病院のがん相談支援センターの活動の自己評価を行う。 2016年6月までに、各病院の相談支援部門の活動を国立がん研究センターが作成したチェックリストを用いてチェックし、問題点を明らかにする。 上記は毎年3月に定期的に行うこととする 2) 各病院の相談支援部門の活動についてその質の向上を図るために質の改善の努力を行う。 PDCAサイクルの書式に則り、2016年6月までに医療サービスの質にかかると、目標を達成するための実現可能な達成計画を立てる。 3) 各病院の相談員の能力の維持向上を図る。 実務者ミーティングを年4回開催し、研修会、事例検討、経験交流、患者会との交流などを行う。	H29年3月	達成	1)2)については、2016年6月の第1回実務者会議で、各施設でチェックリストの記入を行い、各病院の質の改善計画をPDCAに基づき立案した。 3)については、実務者ミーティングを4回開催。 ・H28年度第1回会議 H28年6月4日(土)会場、神戸大学医学部付属病院外来診療棟 第2会議室 参加者34名 内容:各施設の質改善計画の共有 ・H28年度第2回会議 H28年10月1日(土)会場、兵庫県立がんセンター 参加者38名 内容:認定がん専門相談員認定単位研修テーマ:就労支援 ・H28年度第3回会議 H28年12月10日(土)会場、兵庫県立がんセンター 参加者39名 内容:ピアサポーター活用事業キックオフミーティング ・H28年第4回会議 H28年2月25日(土)会場、兵庫県立がんセンター 内容:各施設の質改善活動の評価、兵庫県産業保健総合支援センター事業紹介	継続	1)各病院のがん相談支援センターの活動の自己評価を行う。 2017年6月までに、各病院の相談支援部門の活動を国立がん研究センターが作成したチェックリストを用いてチェックし、問題点を明らかにする。 上記は毎年3月に定期的に行うこととする 2)各病院の相談支援部門の活動についてその質の向上を図るために質の改善の努力を行う。 PDCAサイクルの書式に則り、2017年6月までに医療サービスの質にかかると、目標を達成するための実現可能な達成計画を立てる 3)各病院の相談員の能力の維持向上を図る。 実務者ミーティングを年4回開催し、研修会、事例検討、経験交流、患者会との交流などを行う		
	がん患者の就労支援を行う体制づくりをする	組織的な就労支援に対する取り組みが行われていないか、もしくは施設によって大幅な差異がある。	1) 兵庫県社会保険労務士会と協働し、社会保険労務士による相談が各病院で実施可能な体制にする。 2) 兵庫県と協働し、ハローワークにがん患者の就労支援に詳しい職員を配置できるよう交渉を行う。 3) 兵庫県にある事業所に対してがん患者が就労を継続できるような働きかけを県と協働して行う。	H29年3月	一部達成	1)について、整備状況は以下の通り。 兵庫医大;独自で、社労士、FPとの連携事業を実施。ハローワーク西宮との連携事業を開始。 神戸医療センター中央市民病院・神戸大学医学部付属病院:社労士協会と連携 県立がんセンター:産業保健総合支援センターの両立支援相談員との両立支援事業を開始した(関西労災と同様の方法) 2)、3)は、実施していない。	継続	1)兵庫県社会保険労務士会、産業保健総合支援センターと拠点病院の連携事業について各拠点病院にインフォメーションを行う 2)がん患者が就労を継続できるよう、産業保健総合支援センター、ハローワークとの協働を図る		
	がん患者のピアサポートの体制づくり・継続を支援する	ピアサポーターによる相談支援の運営、ピアサポーターの養成と活用の仕組みがない。全国平均は17%であり、水準に達していない。	1) がん患者のピアサポートに取り組む人材を育成する。 神戸大学と協働してピアサポーター養成講座を開催する。 ピアサポーター養成講座受講者の継続教育を目的としてフォローアップ研修会を実施する。 国の標準プログラムに基づく研修を修了したピアサポーターによる相談支援を導入している施設を県内で3か所設ける。	H29年3月	一部達成	は、9月15日(土)・16日(日)の2日間で実施した。 は、12月10日AM0.5日で実施した。 は、実施できず。	継続	1)がん患者のピアサポートに取り組む人材を育成する 神戸大学と協働してピアサポーター養成講座を開催する ピアサポーター養成講座受講者の継続教育を目的としてフォローアップ研修会を実施する 国の標準プログラムに基づき研修を修了したピアサポーターによる相談支援を導入している施設を県内で3か所設ける		
	情報・連携部会の組織を強化し、迅速に意思決定し事業を行える体制を整える	部会の活発な活動が行われていない。 部会員が、必ずしも現場の問題点を把握していない。 事務局、行政、患者会と部会との連携が充分でない。	1) 情報・連携部会と実務者ミーティングを合併する。 2016年6月までに情報・連携部会の部会員として、がん相談に従事する実務者を選出してもらうよう各病院に依頼する。 2016年7月を目処に実務者ミーティングを廃止する。 実務者ミーティングの事務局は情報・連携部会事務局と名称を変えてその機能を存続させる。 情報・連携部会の開催や事務については、兵庫県がん診療連携協議会事務局に担当してもらうこととする。	H29年3月	一部達成	は、部会長より継続的に相談実務者を部会員として頂くよう依頼を行っている。2017年1月10日現在、国指定14病院のうち、部会員が実務者になっている病院は、10病院。県指定9病院のうち4病院である。 は、実施できず。	継続	1)情報・連携部会と実務者ミーティングを合併 2017年6月までに情報・連携部会の部会員として、がん相談に従事する実務者を選出してもらうよう各病院に依頼する 2017年7月目処に実務者ミーティングを廃止 実務者ミーティングの事務局は情報・連携部会事務局と名称を変えてその機能を存続させる 情報・連携部会の開催や事務については、兵庫県がん診療連携協議会事務局に担当してもらう		
県内のがん相談支援の質の向上を推進する人材を育成する。	兵庫県内ではがん専門相談員は3病院に4名しかいない。(全国で233名)今後この資格はがん診療拠点病院の指定要件になる可能性があり、養成するのが賢明と考える。また、人口や拠点病院の数から考えて有資格者が少なすぎる。	1) 2017年3月までに国立がん研究センター認定のがん専門相談員の認定者を県内で4名育成する。 情報連携部会で、認定に必要な研修を年1回以上開催する。 各国指定拠点病院に認定がん専門相談員の申請を積極的に行うように、協議会、県からも働きかけを行う。	H29年3月	達成	1)今年度新たに認定者が9名となり、県内の認定者は合計13名となった。国指定拠点14病院のうち6病院に認定者がいる状況となった。 についても、10月1日にごん相談実務者会議で就労支援をテーマとして研修を行った。 についても、部会を通じて働きかけを行った。	継続	1)国立がん研究センター認定のがん専門相談員の認定者を県内で4名育成する がん相談実務者ミーティングで、認定に必要な研修を1回は開催する 各国指定拠点病院に認定がん専門相談員の申請を積極的に行うよう部会からも働きかけ 国立がん研究センターがん対策情報センター主催のがん相談指導者研修を受講生を派遣する。			

(注) 実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

兵庫県がん診療連携協議会「がん登録」部会関連

項 目	内 容
平成28年度の活動報告	<p>がん登録実務者ミーティングの開催(年3回開催予定)</p> <p>第1回・がん登録実務者初級者研修会 (5月11日:県立がんセンター) ・講師:県立がんセンター消化器外科部長 千堂宏義氏 国立がん研究センターがん対策情報センター がん登録センター 江森佳子氏</p> <p>・第2回・がん登録実務者研修、グループ討議等 (11月15日:西神戸医療センター) テーマ:院内がん登録統計・分析のホームページでの発信 がん登録の情報活用 等</p> <p>・第3回・がん登録実務者研修、グループ討議等 (2月24日(予定):県立がんセンター) テーマ:2014年登録数と、治療別集計の分析と今後の登録についての検討</p> <p>「都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 がん登録部会」への参加</p> <p>・ とき:6月4日</p> <p>・ ところ:国際研究交流会館(国立がん研究センター)</p> <p>・ 内 容:報告事項(がん登録推進法施行等の状況、院内がん登録2014年全国集計結果 等) 検討事項(全国集計の公表方法、予後調査支援事業 等)</p> <p>* 全国がん登録実務者研修会の開催 (9月26日:兵庫県民会館) ・テーマ:全国がん登録への届出実務～基本と演習 ・講 師:国立がん研究センターがん対策情報センター がん登録センター室長 松田智大氏</p>
平成29年度の活動計画及び今後の検討課題等	<p>がん登録実務者ミーティングの開催</p> <p>・ 年3回開催予定 (開催予定時期:5月、11月、2月)</p> <p>「都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 がん登録部会」への参加</p> <p>・ 開催時期未定</p> <p>* 全国がん登録に関する研修会の開催(予定) 開催時期、内容未定</p>

〔平成28年度 P D C A サイクル実施計画・管理表〕

平成28年12月末 現在

部署名	実施予定				実施管理					
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	P 計画	D 実行	C 評価		A 改善	
							区分	内容	区分	内容
がん登録部会	がん診療情報を収集・分析する体制整備(がん診療連携拠点病院の役割)	拠点病院の指定要件に院内がん登録のデータを活用し、登録数や各治療法をホームページにて広報することが挙げられているが、こども病院を除く国拠点14病院の1割強は登録数、6割弱は治療法が掲載されていない現状で、集計方法もさまざまである。	都道府県がん診療連携拠点病院の指定要件として、県内の院内がん登録に関する情報の収集を行っている事とあり、こども病院(小児拠点病院)を除く国指定のがん診療連携拠点14病院の院内がん登録情報を持ち寄り分析したデータががん診療連携協議会のホームページにまとめて広報することなど検討する。	H29年3月			達成見込	がん診療連携協議会のホームページに、国指定の拠点病院だけでなく、県指定の拠点病院、準じる病院も含め、院内がん登録を行っている施設の2014年院内がん登録数等のデータを掲載するべく、実務者ミーティングで協議を進めている。	継続	患者等に役立つデータの掲載に向け、より充実した内容になるよう、実務者ミーティング等で検討を加えていく。
	がん登録実務の精度向上	昨年度から、がん登録実務者の認定及び更新試験が実施され、国や患者が求めるがん登録実務者の技能が高くなっている。 また、平成28年1月、がん登録等の推進に関する法律が施行され、院内がん登録実務をめぐる制度変更の時期を迎えており、それに対応した実務者のレベルアップが課題となっている。	今年度は、法律の制定に伴い院内がん登録の運用マニュアルや新標準登録様式での登録が始まるため、兵庫県がん診療連携協議会がん登録部会の下部組織である実務者ミーティングの事務局メンバーが主体となり、がん登録実務者が情報共有できる場を企画・運営し、年に3回(5・11・2月)開催する。 各施設毎に国立がん研究センターが開催する中級者研修や更新試験、今年度から始まる上級者研修で登録データを集計・分析する実務研修に積極的に参加し技能を磨く。	H29年3月			達成見込	がん登録実務者ミーティングを2回(5/11、11/15)開催した。このうち第1回目の会議には国立がん研究センター等から講師を迎え、初級者向けの実務者研修とした。 今年度は2/24にも会議を開催する予定である。	継続	平成29年度もがん登録実務者ミーティングを3回開催するとともに、初級者研修会を引き続き実施し、実務者の質向上を図っていく。

(注) 実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、「達成」「概ね達成」「未達成」から、A改善における区分は、「完了」「継続」「その他」から、それぞれ1つ選んで記入する。

平成28年度 がん登録実務者ミーティング（概要）

	開催日	内 容	開催場所	参加者
第1回	5月11日	がん登録実務者初級者研修 テーマ：原発性肝癌取扱い規約第6版の変更点 講 師：県立がんセンター消化器外科 部長 千堂宏義氏 テーマ：新標準登録様式、多重癌ルール 講 師：国立がん研究センターがん対策情報センター 江森佳子氏	県立がんセンター	41 病院 71 人
第2回	11月15日	県内の部位別 2015 年院内がん登録数について グループ討議、発表、意見交換 テーマ：がん登録の情報活用～各施設のがん登録数の集計や自施設の強み等の発信方法の検討等 院内がん登録標準登録様式 2016 年版の事前質問に対する回答	西神戸医療センター	36 病院 56 人
第3回	2月24日 (予定)	2014 年登録数と、治療別集計の分析と今後の登録についての検討 ・兵庫県がん診療連携協議会ホームページ公表案について ・兵庫県で登録数の多い3大がん（大腸・肺・胃）の病期・治療法別 2014 年集計結果の分析について ・初回治療の定義、標準登録様式の適用時期に沿った登録について	県立がんセンター	

全国がん登録実務者研修会（概要）

開催日	内 容	出席者数
9月26日	開催場所：兵庫県民会館 テーマ：全国がん登録への届出実務～基本と演習 講 師：国立がん研究センターがん対策情報センター がん登録センター室長 松田智大氏	145 人

兵庫県がん診療連携協議会「緩和ケア」部会関連

項目	内容
平成28年度の活動報告	<p>第4回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会(12月12日,国がん)</p> <p>兵庫県緩和ケアチーム研修会(平成29年1月14日(土))</p> <p>上記会議、柏原病院主催・兵庫県私学会館にて開催(88名参加)</p> <p>平成28年度緩和ケア研修会指導者の会と患者会との合同検討会(平成29年1月14日(土))</p> <p>上記会議、兵庫県私学会館にて開催(30名参加)</p> <p>緩和ケア研修会の開催</p> <p>兵庫県緩和ケアチームのメーリングリスト開設(http://www.hyogo-ganshinryo.jp/palliative_care/index.html)</p> <p>緩和ケア部会企画運営委員の設置</p>
平成29年度の活動計画及び今後の検討課題等	<p>都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会(未定)</p> <p>兵庫県緩和ケアチーム研修会(11月11日) 近畿中央病院主催</p> <p>緩和ケア研修会指導者の会と患者会との合同検討会(11月11日)</p> <p>緩和ケア研修会の開催(がん診療連携協議会HPにて掲載)</p> <p>緩和ケアフォローアップ研修会の開催(未定)</p>

（平成28年度PDCAサイクル実施計画・管理表）

平成28年12月31日 現在

部 会 名	実 施 予 定				実 施 管 理					
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	P 計画	D 実行	C 評価		A 改善	
							区分	内 容	区分	内 容
緩 和 ケ ア 部 会	緩和ケアチームによるPDCAサイクルを用いた緩和ケアの推進	PDCAによる計画を公表したのは32施設にとどまる。	周知不足であれば、昨年同様に、PDCAを用いた推進計画を作るよう促す。 作成方法がわからない事に起因していれば、アドバイスを受けることのできる機会をつくる。	H29年1月			達成	緩和ケアチーム研修会への参加施設は、33施設となった。	継続	さらに参加施設を増やすようにする。
		PDCAのプランの作成のしかたが妥当でないかもしれない。	緩和ケアチーム研修会前に、プランの作成方法が妥当であるか、アドバイスを受けることのできる機会をつくる。 緩和ケア研修会のGWにおいて、他施設の意見を聴く。	H29年1月			概ね達成	緩和ケアチーム研修会の内容に、PDCAサイクルについての評価をピアレビューにより行うセッションを取り入れた。	継続	ピアレビューは、概ね好評であったが、ピアレビュー効果は来年評価する。

(注)実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

第4回 緩和ケア部会 開催記録

国立がん研究センター がん情報サービス ganjoho.jp 医療関係者向けサイト

HOME > 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 > 緩和ケア部会 >

第4回 緩和ケア部会 開催記録

更新日：2017年01月12日 [更新履歴]

【開催概要】 【開催記録】

平成28年12月12日、第4回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会が国立がん研究センターで開催された（資料：議事次第）。各都道府県がん診療連携拠点病院の緩和ケア部門の責任者および実務者、各都道府県の緩和ケア関連会議の責任者が出席し、合計68施設から114名の緩和ケアの関係者が参加した。また、患者の立場から前川育氏（特定非営利活動法人周南いのちを考える会）、天野慎介氏（一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン）、桜井なおみ氏（キャンサー・ソリューションズ株式会社）の3名がオブザーバーとして参加した（資料：出席者名簿）。

冒頭に国立がん研究センターがん対策情報センター長 若尾文彦より、がん対策基本法の改正法が成立し「緩和ケア」という言葉が明記され、がん診療連携拠点病院には更なる緩和ケアの充実が求められている。本部会では、緩和ケアの取り組みの好事例について共有するとともに、課題について議論していきたい旨、あいさつがなされた。

以後、議事次第に沿って、緩和ケア部会長 国立がん研究センターがん対策情報センター加藤雅志が議事進行した。

まず、院内の緩和ケアの質の向上に関する事前アンケート結果（資料2-1）の説明の後、岩手医科大学附属病院 木村祐輔先生より岩手医科大学附属病院の緩和ケアセンターを中心とする取り組みについて（資料2-3）紹介がなされた。また、加藤より院内の緩和ケアチーム活動の改善を目的とした取り組みの一つとして日本緩和医療学会が実施する緩和ケアチームセルフチェックプログラム（資料2-2）について紹介があり、参加者間での情報共有が図られた。

次に、厚生労働省健康局がん・疾病対策課 濱卓至 課長補佐より、緩和ケア施策の進捗状況と現状について紹介がなされた（資料1）。

その後、都道府県単位での緩和ケアに関する質の向上に関する事前アンケート結果（資料3-1）の説明があり、川崎市立井田病院 宮森正先生より、神奈川県緩和ケア部会のピアレビューの取り組み（資料3-2、追加資料）、奈良県立医科大学附属病院 四宮敏章先生より、地域での緩和ケアチーム研修会の取り組み（資料3-3）について紹介がなされた後、それぞれ具体的な取り組みや課題について意見交換がなされた。

また、国立がん研究センターがん対策情報センターが実施する、地域における緩和ケアチーム研修企画・実施にかかる指導者養成研修（資料4）、地域緩和ケア連携調整員研修（資料5）について紹介がなされた。

全体の議論を踏まえ、当部会を通して全国単位での議論をどのように進めていくか、国立がん研究センターに求める支援等について意見交換がなされ、各都道府県で緩和ケアの質の向上のためにすべきことや緩和センターのジェネラルマネージャーの役割などについて、継続的な意見交換等による議論で明確にしていくことや、各都道府県において緩和ケアチームを対象とする研修会を開催支援するための研修パッケージ作成等について話し合いがなされた。

患者の立場で参加しているオブザーバーの方々からは、緩和ケア提供体制の格差に関するコメントともに、誰もが緩和ケアが受けられる提供体制の整備への期待などが語られた。

最後に、国立がん研究センターがん対策情報センター長 若尾文彦より、がん対策基本法の成立後 10 年で変えられなかったことを、今後 10 年で変えて行けるよう、がん診療連携拠点病院で協力して進めて行きたい旨挨拶があり閉会となった。

<資料>

議事次第 (PDF)

出席者一覧 (PDF)

資料 1 緩和ケアに関する連絡事項 (PDF)

資料 2-1 院内緩和ケアの質の向上に関する取り組み 事前アンケート結果 (PDF)

資料 2-2 緩和ケアチームセルフチェックプログラムについて (PDF)

資料 2-3 岩手医科大学附属病院の取り組み紹介 (PDF)

資料 3-1 都道府県の緩和ケアに関する質の向上に関する取り組み 事前アンケート結果 (PDF)

資料 3-2 神奈川県取り組み紹介 (PDF)

追加資料 1 神奈川県緩和ケア部会ピアレビューマニュアル (PDF)

資料 3-3 奈良県の取り組み紹介 (PDF)

資料 4 緩和ケアチーム(指導者)研修会について (PDF)

資料 5 緩和ケア地域連携調整員について (PDF)

参考資料 1 事前アンケート - 各施設からの回答 (PDF)

参考資料 2 緩和ケアチームの基準 2015 年度版 (PDF)

参考資料 3-1 緩和ケアチームセルフチェックプログラム実施手順書 (PDF)

参考資料 3-2 緩和ケアチームセルフチェックプログラム実施スケジュール (PDF)

参考資料 3-3 緩和ケアチームセルフチェックプログラム Act、Plan シート (PDF)

追加資料 2 地域緩和ケア連携調整員研修(チラシ) (PDF)

第7回 兵庫県緩和ケアチーム研修会

タイムテーブル

平成29年1月14日(土) 13:30~17:00

兵庫県私学会館 4階大ホール

開始時刻	終了時刻	所要時間	研修内容	担当/講師
13:30	13:50	20	ご挨拶/本日の説明	県立柏原病院 副院長 西崎 朗 県立がんセンター 地域医療連携部長 兼 緩和ケアセンター次長 池垣 淳一
13:50	14:50	60	パネルディスカッション 「そうだったのか!! コンサルテーション」	~座長~ 池垣 淳一 県立がんセンター がん専門看護師 伊藤 由美子
14:50	15:00	10	休憩	
15:00	15:30	30	苦痛のスクリーニングについて	~講師~ 県立がんセンター 緩和ケア認定看護師 西村 晴美
15:30	16:50	80	PDCAサイクルについて	~講師~ 県立加古川医療センター 緩和ケア内科医長 坂下 明大
16:50	17:00	10	ふりかえり	池垣 淳一

平成 28 年度緩和ケア研修会指導者の会と患者会との合同検討会議事録（案）

日時	平成 29 年 1 月 14 日（土） 10 時 30 分～11 時 45 分	場所	兵庫県私学会館 101 会議室
出席者	<p>ひょうごがん患者連絡会 副会長 山本宗男、 同事務局 田村美生夫、淡路医療センター患者代表 本濱まなみ</p> <p>神戸大学医学部附属病院 木澤義之、関西労災病院 堀謙輔</p> <p>神戸中央市民病院 高橋豊、姫路医療センター 和田康雄、近畿中央病院 合屋将加古川中央市民病院 竹中かおり、 西神戸医療センター 今中一文、</p> <p>神鋼記念病院 浅石眞実、淡路医療センター 濱中章洋、県立西宮病院 福永睦、公立豊岡病院 遠藤真一郎、県立柏原病院 板倉崇泰、</p> <p>赤穂市民病院 横山弥栄、市立西脇病院 木村祥子、姫路赤十字 福永智栄、市立川西病院 杉本圭司、尼崎総合医療センター 阪井宏彰、</p> <p>神戸赤十字病院 梶本和宏、市立伊丹病院 堀木優志、</p> <p>兵庫医大 棚田大輔（代理）宮脇弘樹、宝塚市立病院 松田良信、吉川善人、兵庫県立加古川医療センター 坂下明大、同 田中祐子</p> <p>兵庫県立がんセンター 池垣淳一、兵庫県疾病対策課 久保田久美子</p> <p>（順不同） 書記：岡山 宝塚市立病院</p>		
議題および 討議内容	<p>報告事項</p> <p>1. 緩和ケア研修会進捗状況（兵庫県疾病対策課 久保田）以下を説明 資料配布</p> <p>①国拠点病院、その他拠点病院以外の開催状況 ②都道府県別の研修会の受講率（暫定）③拠点病院ごとの緩和ケア研修会の受講率 ④緩和ケア研修会地域別修了者数</p> <p><質疑事項></p> <p>①西神戸医療センター</p> <p>Q：研修医師の母数とは？ 初期研修医 2 年目とは、どの時点を指すのか</p> <p>②宝塚市立病院</p> <p>Q：母数について 主治医にならなければ研修会の母数から外して良いのか？</p> <p>A：厚生労働省から解釈・積算方法が通達されているので参考にしてください。6 月に再調査が入ります。厚生労働省の解釈では、当直など、がん診療に携わる医師は受講を義務づける（木澤）。その他の診療科について がん診療に携わっている場合は母数に加える。放射線診断、病理医は除外されても良い（久保田）。</p> <p>③患者会 田村さん</p> <p>Q：看護師は入っていないのか</p> <p>A：看護師数は入っていない。看護師は ELNEC-J が全国で開催されている</p> <p>④患者会 田村さん</p> <p>Q：がん対策基本法にはすべての患者を対象にとあるが。</p> <p>A：がん対策基本法には必要に応じて提供すること・・・全員が対象ではない</p>		

④宝塚市立病院 松田

Q：2年目の研修医の後半に受講させなさいと記載しているが、当院は5月に開催しているが、後半でないが良いか。

A：それで良い。

2. 患者会のご意見をどう反省させたか

I. 患者による講演

① 淡路医療センター2日目のロールプレイの前にセッションを設けた。時間制限だけ設け、思いを話して頂いた（濱中）。

本濱さん

研修会でも日常を話させて頂いた。父のがん闘病を支えた、自分のがん告知の経験などを先生方の前で話させて頂いたことは、良い経験であった。

② 宝塚市立病院：2年前は、ゆずりはの宮本直治さんにお越し頂いた。去年は、阿南 里恵さんにお越し頂いた。20代でがんになった。就労の苦勞などについて話して頂いた。（松田）

③ 柏原：喉頭がんの方で、人口喉頭だったので、吉川先生に原稿を代読頂いた内容に困られていたもので、手紙内容をまとめた。参加者には、かなり衝撃を与えられる。（板倉）

*お話し頂く際には、感情が高ぶった経験があるので、主催者側は、患者さんへの配慮が必要であることを肝に銘じてください。

II 関西労災病院

アンケートの集約スライドに盛り込んだ取り組みを紹介（堀先生）

III その他

加古川医療センター乳がん患者会から2名お越し頂いた。医師の前で話すのは緊張するので、インタビュー形式に変更した。20分。嬉しかったこと、つらかったこと、医師の良かった点について話して頂いた。（坂下）

患者会のご感想、コメントその他

田村さん）参加率のデーターから、緩和ケア研修会が開始し9年経過しているので、受講率を上げて頂きたい。不安や恐怖に対する心のケアを大事にしてほしい、27年の10月に、がん対策加速化プランについて、患者の苦痛が十分に緩和されていない患者が3～4割いると書いてあるが、本当でしょうか？

木澤）苦痛の調査はしている。痛みのある人で、がんの痛みは1/3である。病院にいる人は、苦痛があるから入院しているので何らかの苦痛は持っている。痛みがある人でどれだけ苦痛がとれたかを考えるのは、世界でも研究は不可能である。つらさに対して対応することは、これからもやっていきたい。

山本さん)

○緩和ケアでは、患者満足度を指標に挙げていた。今の指標は？

○がん相談に行っても、病院に行ってもわかりにくい、医療者の片手間で行っているように感じる。

○一般病院での緩和ケア提供に不安がある。

① 指標について満足度の調査は難しい。(木澤)

② 相談支援センターについて個別の患者のデータを見て、話し合うものではなく、内容を整理して主治医と話し合うための準備するようなどころだろ思っ欲しい。(池垣)

③ がんセンターでは、一般病院と連携して困難であれば、がんセンターに紹介して頂くというようにしている。(池垣)

協議事項

1. 次年度開催予定 資料参照、日程確認

阪井) 兵庫県立尼崎総合医療センターの研修医はすべて当院で研修する事になっているが、負担である。→兵庫県立病院の研修医は分散させてほしいと言ったが、以前、尼崎病院の要望で、自病院で行うと事になっている。今後検討する。

坂下) 加古川に B 課程のみ受講し、A 課程を受講させて欲しいという受講生がいた。

→兵庫県からは、A 課程を受講しないと、B 課程は受講不可能

2. その他

山本さん)「がん施策サミット」を兵庫県でも開催して欲しい。

兵庫県がん診療連携協議会「がん地域連携パス」部会関連

項目	内容
平成28年度の活動報告	<p>5大がんパスの見直しで、大幅な変更があれば7/1に近畿厚生局へ届け出る。</p> <p>5大がんのパスを修正し、新たな統一パスとして使用する。</p> <p>修正後の5大がんパスを兵庫県がん診療連携協議会のHPに掲載し周知を図る。</p> <p>大腸癌ESDパスを作成する。</p> <p>肺がんのイレッサとタルセバのパスを作成し、検討する。</p> <p>電子化については問題点を整理し解決方法を検討する。</p>
平成29年度の活動計画及び今後の検討課題等	<p>5大がんパスの見直しで、大幅な変更があれば7/1に近畿厚生局へ届け出る。</p> <p>○ 肺がんのイレッサとタルセバのパスに関しては、継続審議とする。</p>

〈平成28年度PDCAサイクル実施計画・管理表〉

平成28年12月31日 現在

部 会 名	実 施 予 定				実 施 管 理					
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	P 計画	D 実行	C 評価		A 改善	
							区分	内 容	区分	内 容
が ん 地 域 連 携 バ ス 部 会	バスの利用率の向上	バスの利用率は徐々に向上しているものの、いまだ十分とは言いがたい。特に県指定拠点病院や準拠点病院での利用率は低く利用率の向上が望まれる。	1) 27年度のバスの運用状況について調査を行う。 2) すべての拠点病院での運用を図る。 3) 利用率の上がない施設での、問題点や取り組みについての報告会を開催する。	H29年3月			未達成	バスの利用率向上に向けて、各拠点病院に促進を依頼した。	継続	拠点別利用率の向上を図る
	5大がんのバスの修正と登録	兵庫県統一バスの利用を開始して昨年で5年が経過し、バスの問題点を見直してきた。今年度は、改正されたバスをHPに登録し、拠点病院に周知し、利用率の向上に努める。	1) 5大がんのバスを修正し、新たな統一バスとして使用する。 2) 修正後の5大がんバスを兵庫県がん診療連携協議会のHPに掲載し周知を図る。	H29年3月			達成	5大がんのバスの見直しを実施し兵庫県がん診療連携協議会のHPに掲載した。	完了	修正したバスの利用率の向上を目指す
	新規バスの作成	現在5大がんのバスのうち、大腸内視鏡治療のバス、および肺がんの術後補助療法のバスの要望があり、現在作成中。今年度中に作成し、HPに登録を目指す。バスの電子化については、一般化や費用の面で問題点があり今後の検討が必要。	1) 大腸がんESDバスを新たに追加作成する。 2) 肺がんのイレッサとタルセバのバスを作成する。 3) 電子化については問題点を整理し解決方法を検討する。	H29年3月			概ね達成	大腸がんESDのバスを作成していただき、検討した。新しいバスとして承認した。肺がんのイレッサとタルセバのバスを作成していただいた。	継続	新しいバスの運用を開始する。使用後に問題点を検討する。

(注)実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

大腸がんESD治療に関する連携計画書 (医療者用)

SMがん

患者氏名 _____ 様

計画策定病院(A): _____ 病院 担当医師: _____ 連絡先: _____
 連携医療機関(B): _____ 担当医師: _____ 連絡先: _____

		かかりつけ医	病院	かかりつけ医	病院	かかりつけ医	病院	かかりつけ医	病院	かかりつけ医	病院	かかりつけ医	病院
(術後)		1~5ヶ月	6ヶ月	7~11ヶ月	1年	1年1~5ヶ月	1年6ヶ月	1年7~11ヶ月	2年	2年1~5ヶ月	2年6ヶ月	2年7~11ヶ月	3年
		月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
診察	問診												
	視触診												
採血													
検査			(CTが望ましい)	(CTが望ましい)	(CTが望ましい)	(CTが望ましい)	(CTが望ましい)	(CTが望ましい)	(CTが望ましい)	(CTが望ましい)	(CTが望ましい)	(CTが望ましい)	(CTが望ましい)
投薬													

		かかりつけ医	病院 or かかりつけ医	かかりつけ医	病院	かかりつけ医	病院 or かかりつけ医	かかりつけ医	病院
		3年1~5ヶ月	3年6ヶ月	3年7~11ヶ月	4年	4年1~5ヶ月	4年6ヶ月	4年7~11ヶ月	5年
		月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
診察	問診								
	視触診								
採血									
検査			(CTが望ましい)	(CTが望ましい)	(CTが望ましい)	(CTが望ましい)	(CTが望ましい)	(CTが望ましい)	(CTが望ましい)
投薬									

必ず実施します 必要に応じて実施します
 Stage 大腸がんの場合に実施します

術前検査不十分の場合に実施します
 補助化学療法施行時に実施します

上記の受診日はおおまかなめやすです。定期受診日以外でも必要があれば診察します。
 また、症状に応じて、適宜血液検査・画像検査・その他の検査などを行います。

大腸がんESD治療に関する連携計画書 (医療者用)

Mがん

患者氏名 _____ 様

計画策定病院(A): _____ 病院 担当医師: _____ 連絡先: _____
 連携医療機関(B): _____ 担当医師: _____ 連絡先: _____

	(術後)	かかりつけ医	病院	かかりつけ医	病院 or かかりつけ医	かかりつけ医	病院	かかりつけ医	病院 or かかりつけ医	かかりつけ医	病院
		1~11ヶ月 月 日	1年 月 日	1年1~1年11ヶ月 月 日	2年 月 日	2年1~2年11ヶ月 月 日	3年 月 日	3年1~3年11ヶ月 月 日	4年 月 日	4年1~4年11ヶ月 月 日	5年 月 日
診察	問診										
	視触診										
採血											
検査											
投薬											

必ず実施します _____ 必要に応じて実施します
 Stage 大腸がんの場合に実施します

術前検査不十分の場合に実施します
 補助化学療法施行時に実施します

上記の受診日はおおまかなめやすです。定期受診日以外でも必要があれば診察します。
 また、症状に応じて、適宜血液検査・画像検査・その他の検査などを行います。

変更点

1、M 癌は 1 年後再検査、以降は 2 年毎で 5 年までとした。

サベイランス間隔は、M 癌なので主として腺腫を対象とした JPS (Japan polyp study) に必ずしも準拠せず、もう少し短いものとした。多くの病院が使用している電子カルテでは 1 年後しか予約できないことや実臨床として検査などなく 2 回来院いただき 3 年後に検査予約するのは、実際の外来での運用がむづかしいとの意見も考慮し、ドロップアウトを防ぐことも考慮した。

2、SM 癌は 3 年目までは半年ごと、4 年目、5 年目は年一回とした。

ガイドラインでは、3 年目までは厳重経過観察としていることや、進行大腸癌の地域連携パスも 5 年となっていることも勘案した。

全身転移の画像診断は、CT と腹部超音波は半年ごとに交互に行うため各々年 1 回であることを付記した。

なお、この地域連携パス(案)の作製に関して 2 つの学会で発表した。

日本クリニカルパス学会(11月25日26日金沢)では、初回提案パス(M 癌 1 年後以降 3 年毎 10 年間、SM 癌半年毎 5 年間)に関して、根拠を示した良い発表との評価がされた。

消化器内視鏡学会地方会パネルディスカッション(11月26日京都)では、パスに関しては十分な根拠がなく今後のデータに蓄積が必要との意見であった。ただし、一部のオピニオンリーダーの実際の臨床では、2-3 年間半年おき、以降は年一回ないし検診となっているとの意見もあった。

一方、返事のあった拠点病院は 6 病院。初回提案パス(M 癌 1 年後以降 3 年毎 10 年間、SM 癌半年毎 5 年間)に関して 3 病院が OK であった。他の 3 病院は、M と SM を分けることにはすべての病院で OK であったが、M 癌も CS も含め毎年経過観察の意見もあった。

今回、上記の意見も考慮し、”必要に応じて(パス内の 印)”に大腸内視鏡検査等をいれた。また、拠点病院のみならず、連携病院(かかりつけ医)での検査も可とした。

以上、経過観察の期間(M 癌を 3 年毎 10 年から、2 年毎 5 年)と経過観察の間隔(SM 癌を 3 年目以降半年間隔から 1 年間隔)の変更が、最も大きい変更です。

兵庫県立柏原病院 西崎 朗